

1998年日展・特選受賞作「春月」(当館蔵)

徳島県立文学書道館 書道特別展

勝瀬景流 一力強く、流麗な仮名

2023年 9月30日(土) - 11月12日(日)

- 会場 徳島県立文学書道館 1階 特別展示室、3階 書道美術常設展示室
- 開館時間 9:30 - 17:00
- 休館日 月曜日。10月9日(月・祝)は開館し、翌10日(火)は休館。
- 観覧料 一般 520円(410円) / 高校・大学生360円(290円) / 小・中学生 260円(200円)
()内は20人以上の団体割引料金。高齢者(65歳以上)と各障がい者手帳をお持ちの方は半額。小・中・高校生は土・日・祝日・秋休み期間は無料。
- 主催 徳島県立文学書道館
- 後援 徳島県教育委員会、徳島新聞社、四国放送、NHK徳島放送局

関連イベント

トーク「勝瀬景流の人と書」*定員100人(申込締切10月1日)

- 日時 10月15日(日) 13:30 - 15:00
- 講師 森上 光月 (朝陽書道会理事長)
薄田 玲泉 (元・光輪社代表)
森 光翔 (光輪社代表)

展示解説 *申込不要、要観覧券。

- 日時 10月25日(水)、11月3日(金・祝) 11:00 - 11:30
- 講師 松山 佳代 (当館学芸員)

言の葉ミュージアム

徳島県立文学書道館

〒770-0807 徳島市中前川町2丁目22-1

TEL 088-625-7485 FAX 088-625-7540

メールアドレス kotonoha@bungakushodo.jp



書家・勝瀬景流は、青年期に独学で書を学び、中央展で見た仮名の美しさに魅せられて、24歳から高木聖鶴に師事しました。仮名作家として独自の書風を築き、線に強さを含んだ流麗な作品を残しました。

日展では、1996年と翌年の無鑑査出品を経た98年に特選を受賞し、徳島県在住書家として初めて特選連続受賞の快挙を成し遂げました。

本展では、30代から急逝した70歳までの仮名作品を中心に、ペン字作品や調和体、漢字の作品を含む約50点を展示し、勝瀬景流の世界を紹介します。併せて関連資料も展示します。



1



2



3



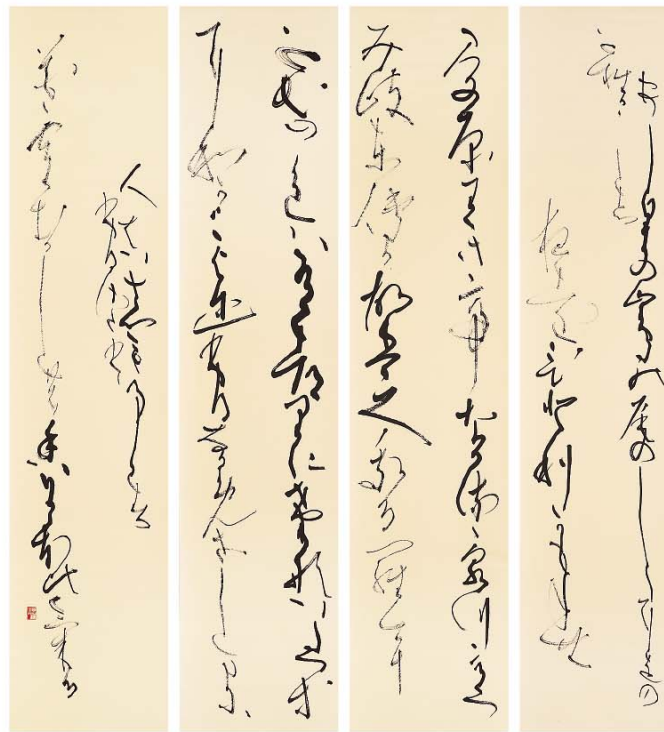
4



5

- 1 「あめつちの…」
- 2 「めぐりあいのふしぎに手をあわせよう」
- 3 「しのぶれど…」
- 4 「さしのぼる…」ペン字
- 5 「たのしい」
- 6 「あしびきの…」

(いずれも個人蔵、4はペン字)



6



勝瀬 景流 (1941-2011)

徳島県小松島市生まれ。名は文夫。中学校で担任の玉有崇峰に出会い、書に興味を持つ。青年期はペン字や書道を独学で学び、19歳のとき毎日書道展に近代詩文書を出品し入選、20歳で日本ペン習字研究会審査員を務めるなど、若くして才能を発揮。24歳から高木聖鶴に師事した。28歳で書道結社「光輪社」を創設、多くの後進を育てた。日展では特選2回、入選18回を数え、審査員を2回務めた。

日展会員、読売書法会常任理事、日本書芸院常務理事、朝陽書道会理事長などを歴任。徳島新聞文化賞などを受賞。

トークの申込方法

はがき・FAX・メールのいずれかに「勝瀬景流展トーク希望」と明記のうえ、郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号を記入し、お申し込みください。当館1階受付でも申し込みます。

交通アクセス (JR徳島駅から)

■徒歩 (約15分)

JR徳島駅西側のポッポ街を抜けて右折。踏切と助任川を越え、3つめの信号交差点を右折して約300m。徳島中学校東隣。

■バス

〔徳島市営バス〕7番乗り場「川内循環線(右回り)」に乗車。「吉野本町2丁目」で下車し徒歩で約5分。
〔徳島バス〕15番乗り場「前川経由」に乗車。「吉野本町2丁目」で下車し徒歩で約5分。

■タクシー・自動車 (約5分)

国道192号線、藍場町交差点を北進。助任川を越え、4つめの信号を右折して約300m。

■駐車場 当館北側にあります(乗用車43台・大型バス2台)。

